

2021年 7月 13日

報道機関 各位

赤字続きの温泉施設に地元の高校生と勉強スペースを設置

長崎大学経済学部 3年西村ゼミは、長崎県雲仙市小浜町の望洋荘という温泉施設に地元の長崎県立小浜高等学校の高校生とともに勉強スペースを設置し、7月30日（金）（12：00～予定）にオープンイベントを実施します。

長崎大学経済学部では、地域の事業者クライアントとなっただき、その経営課題の発見と解決策の提示、試行を通じて、実践的な学びを行うプログラム（ビジネス実践育成プログラム）を実施しています。そのプログラムの一環のゼミ活動として、3年生の1年間、望洋荘の集客向上に取り組んでいる西村ゼミの5人の学生チームは、この温泉に勉強スペースを設置することにして、7月30日にオープンすることとなりました。



望洋荘で小浜高校生との会議の様子

望洋荘は雲仙市の指定管理施設の日帰り温泉施設ですが、従業員の平均年齢は約60歳であり、客層も60～90代の人が9割を占め、若者の姿は見えません。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、宣伝も満足にできない状態が続き、経営は火の車です。長崎大学経済学部では昨年度から望洋荘の経営再建支援プロジェクトを行っており、昨年度はレジアプリの導入などによる生産性改善や岩崎本舗さんに協力いただいた角煮まんじゅうの販売等に取り組みました。そして今年は、高齢者だけでなく、新しい顧客をターゲットとした集客増大プロジェクトに取り組んでいます。

私たち西村ゼミ3年生5名は、地元の小浜高校の2年生と計12名で合同チームを組織し、プロジェクトを4月から行ってきました。雲仙市には大学がないため、雲仙市に住む学生は大学生と日常的に接する機会はありません。そのため、大学に行きたいという意欲も低いように思われます。また、都会にはあるような放課後に勉強したり、話をしたりする施設がないことに気づきました。そこで、望洋荘に放課後いつでも立ち寄れる勉強スペースを作り、大学生がその勉強をサポートできれば、望洋荘に若者が訪れるようになり、雲仙市の学生の学力向上にも寄与し、さらには大学を卒業した若者がUターンして地域振興の担い手になることも期待できると考えました。

私たちは、学生でも日常的に利用できるような環境を作るために、小浜高校生を対象にアンケート調査からなるマーケティングリサーチを行い、その結果を分析しました。その結果を基に、勉強スペースの開放時間を定め、提供する軽食のメニューを決め、価格を設定しました。また、年月が経ってぼろぼろになった机を大学生と高校生の協同でリノベーションして設置するなどのハード面の準備も進めてきました。

夏休みに入る7月下旬からの開業を目指して活動を進め、7月30日のオープンにこぎつけました。7月30日のオープンイベントでは、バルーンアート作りとスライム作り教室を開きます。また、私たち現役大学生によるプチオープンキャンパスを実施する予定です。

今後もまだまだプロジェクトは続きますので、ご注目ください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学経済学部総務係：末永 世津子 095-820-6305 ecso@nagasaki-u.ac.jp

長崎大学経済学部西村ゼミ：石田 真依子 080-2948-1450

日帰り温泉 望洋荘 長崎県雲仙市小浜町南本町 10-21 TEL：0957-74-3141

代表：綾部 真弓 080-3947-9553